

「新生けんしん」

第三次中期経営計画

計画期間 平成22年4月～平成25年3月

第三次中期経営計画

スローガン

活力ある未来に向けて

-for the 60th anniversary-

平成22年3月



愛知県中央信用組合

1. 計画策定にあたって

当組合は、平成17年度を「新生けんしん改革元年」と位置づけ、「第一次中期経営計画」（計画期間：平成17年4月～平成20年3月）を策定し、全役職員一丸となって目標達成に向けて取組んできました。

しかしながら、金融環境の変化に対応できる金融機関として存立するため“新生けんしん”の再構築に向けた取組みが必要となったこと、加えて創立55周年となる平成20年度中を目処に新本店建設の決定により、第一次中期経営計画の期間途中で、新たに「第二次中期経営計画」（計画期間：平成19年4月～平成22年3月）を策定する必要性が生じ、「第一次中期経営計画」と同様に全役職員一丸となって目標達成に向けて取組んできました。

現状の日本経済は、海外経済の持ち直しなどを背景に景気が次第に回復していくことが期待されるものの、経済基盤は依然として脆弱であり、地域経済は低迷している状況です。

このような状況下において、けんしんの「第二次中期経営計画」が終了するにあたり、地域に愛され信頼される金融機関を目指す当組合にとって、引き続き強靱な経営体質を確立していくとともに、これまで以上に充実した金融サービスの提供に努めてゆく必要があることから、「経営理念」「経営方針」の下、「第三次中期経営計画」を策定するに至った次第です。

2. 計画の基本的考え方

「第三次中期経営計画」を策定するにあたっての基本的な考え方は以下のとおりです。

- お客様から信頼される金融機関であるためには、厳しい経営環境にも対応できる強靱な経営体質を築き上げることが必要です。
- 金融環境の変化に柔軟かつ迅速に対応していくためには、役職員一人ひとりが前例にとらわれることなく、創意工夫をこらし自ら進んで新しい課題に取り組む企業風土の醸成が不可欠です。
- 平成21年4月に新本店がオープンし、創立60周年（平成25年度）に向け、さらなる『“新生けんしん”をアピールする絶好の機会』と捉え、新たなる飛躍に向けた取組みが必要です。

第三次中期経営計画では、スローガン、年度方針を以下のとおり掲げ、これまでの発想や習慣にとらわれない新たな発想・視点で、経営基盤の強化に向けた取組みを実践していきます。

第三次中期経営計画の スローガン	活力ある未来に向けて -for the 60th anniversary-
---------------------	--

年 度	年 度 方 針
平成22年度	人材育成と戦力強化の年
平成23年度	営業力展開の年
平成24年度	CSR向上の年

第三次中期経営計画 (平成22年4月～平成25年3月)

当組合は、「経営理念」と「経営方針」を掲げ、それらを実現するために、中期経営計画、単年度事業計画を策定し推進しています。

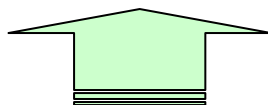
第三次中期経営計画（3ケ年）では、「経営理念」、「経営方針」を実現するために、『**活力ある未来に向けて-for the 60th anniversary-**』をスローガンに掲げ、全役職員が一丸となって第三次中期経営計画に取組み、地域に愛され信頼される金融機関を目指します。

経営理念

「HEARTS AND COMMUNITY」

—心（人間）と地域—

“けんしん”は、人々との心のふれあいを大切に、豊かな地域社会づくりに奉仕します



※全役職員が一丸となって第三次中期経営計画に取組み、経営理念の実現を目指します

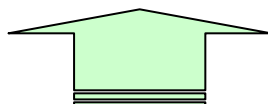
経営方針

① 地域密着で地元主義・お客様第一主義の経営を行う

② 法令等遵守（コンプライアンス）の経営体制を徹底する

③ 堅実経営を基調とし適正利益の確保につとめる

④ 人材育成を重視した経営を行う



※全役職員が一丸となって第三次中期経営計画に取組み、経営方針の実現を目指します

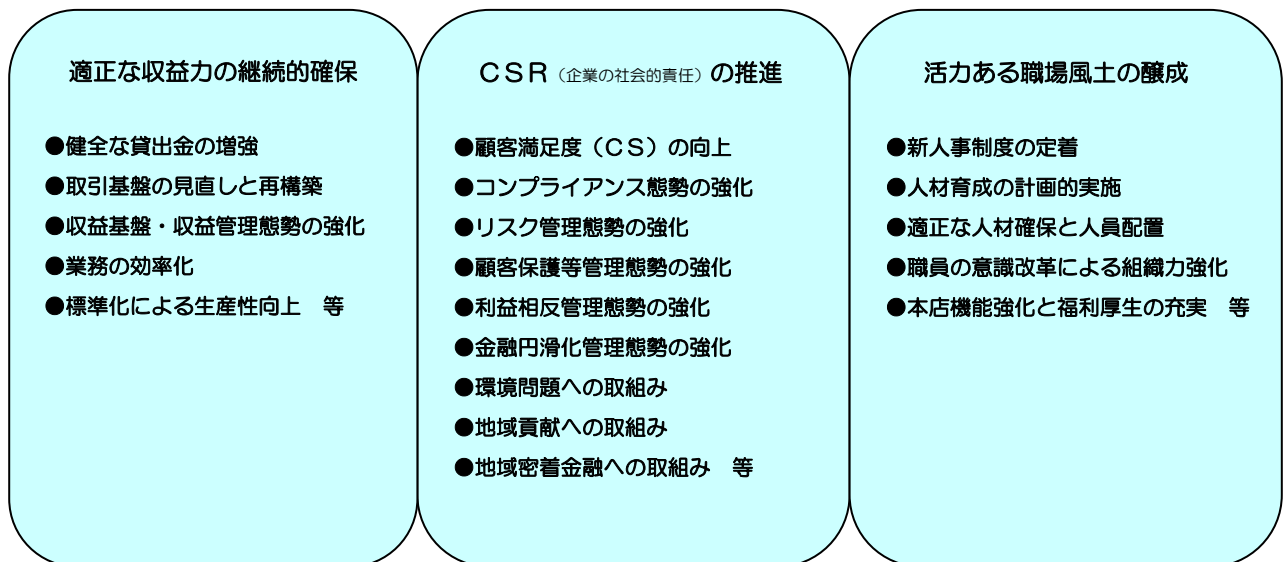
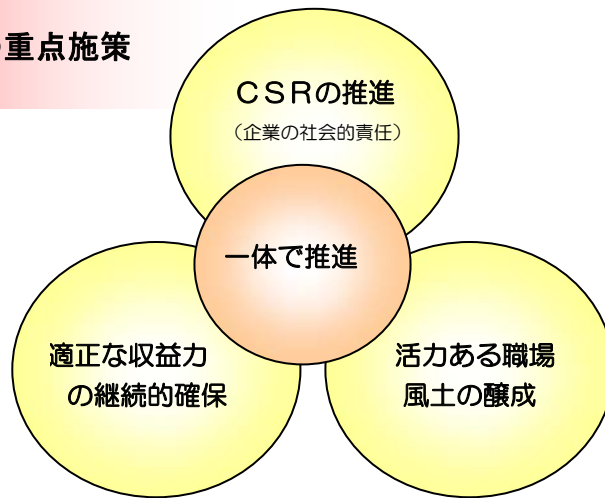
第三次中期経営計画

スローガン

活力ある未来に向けて

-for the 60th anniversary-

第三次中期経営計画の重点施策

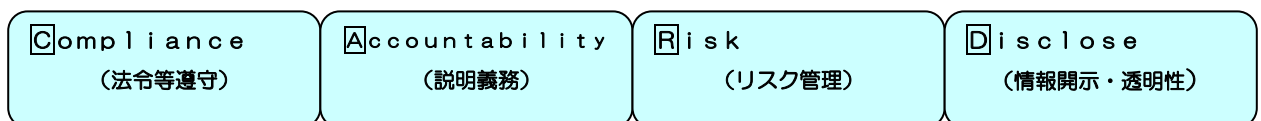


役職員の意識・行動の原点

「経営理念」、「経営方針」のほかに、「役職員の意識・行動の原点」も踏まえ、全役職員が一丸となって第三次中期経営計画に取り組めます。

●「役職員の意識・行動の原点」

「CARDは命、CARDを守る」 役職員が[CARD]に照らして、自ら考え、行動し、評価する。



計数目標

- 当組合は、第三次中期経営計画における各年度の預貸目標を以下のとおり設定しました。

(単位：百万円)

指 標	22年度	23年度	24年度（最終年度）
貸出金残高	80,500	83,500	87,000
預金積金残高	139,500	143,000	146,500

※本計数目標は、平成22年3月現在の経営環境に基づき作成しましたが、経営環境の変化等により随時見直しを行うことがあります。

- 当組合は、第三次中期経営計画における収益性、健全性、効率性における各項目の最終年度の目標を以下のとおり設定しました。

指 標	項 目	24年度（最終年度）
収益性	コア業務純益 ※	314 百万円
	経 常 利 益	241 百万円
	当 期 純 利 益	271 百万円
	ROA（総資産経常利益率） ※	0.15 %
健全性	自 己 資 本 比 率	8.70 %
	不良債権比率（金融再生法）	8.30 %
効率性	OHR（粗利経費率） ※	85.87 %

※本計数目標は、平成22年3月現在で作成しましたが、経営環境の変化等により随時見直しを行うことがあります。

（ ※ 用語の解説 ）

- コア業務純益**…金融機関が本業の粗利益の合計から、人件費などの経費と益出しに使われることが多い国債等債券損益を引いて求めた経営指標。金融機関本体の収益力をより反映するとされます。
- ROA**…企業の収益性を見る指標の1つで、当期純利益を総資産で除したものの、総資産がどれだけ効率的に使われているかを見るもので、ROAが高いほど収益力が高いこととなります。
- OHR**…経費が業務粗利益に占める効率性を示す比率。OHRは低いほど効率性が高いこととなります。

